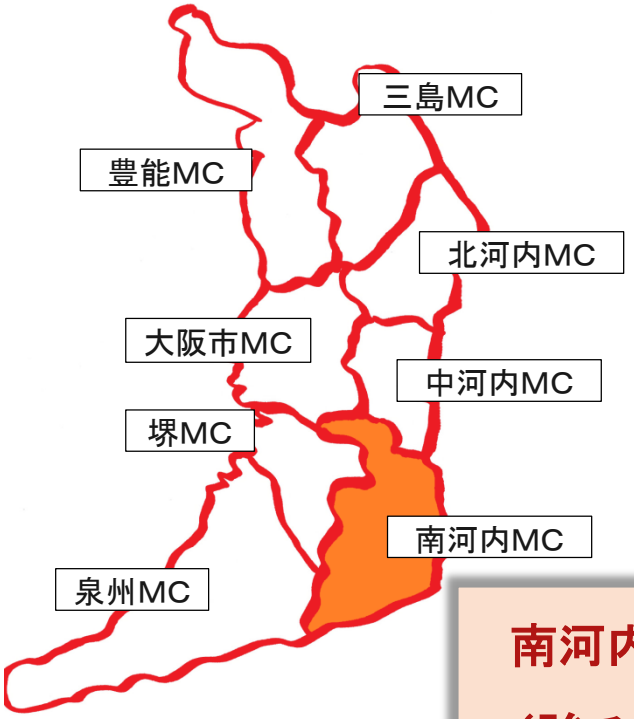
# 小規模MC体制下における
# 指導救命士の役割と活躍の場を広げる仕組みづくり

“小規模MC 2つの挑戦”

大阪府南河内地域救急メディカルコントロール協議会
（河内長野市消防本部）
南　民衛

# 南河内地域救急メディカルコントロール協議会の紹介




- 4市消防本部 にて構成
  松原市・富田林市・大阪狭山市・河内長野市
- 管轄人口・運用救命士数
  府内（8地域MC）で最も少ない
- 指導救命士の管轄人口割・運用救命士割
  府内で最も多い （平成30年10月調べ）

**南河内地域救急MCとしては…**

**（強み）指導救命士の養成には積極的**

**消防本部独自での訓練や教育体制は整っている。**

**（課題）MC内の横断的な教育体制がない。**

**MC内で議論できる場がなく、**

**救急救命士が発言できる場もない。**

挑戦 その志

# 指導救命士主体の研修を企画・運営

※ 平成29年度より、大阪府にて指導救命士の認定が開始
指導救命士による再教育のポイント付与・挿管補修型実習が認められる。

H26 指導救命士
養成開始

| | H２８年度 | H２９年度 | 平成３０年度 | H３１・令和元年度 |
|---|---|---|---|---|
| 気管挿管未達成者<br>再教育研修 | 8月（集合研修）<br>指導救命士認定<br>指導：医師　補助：指導救命士 | 12月（集合研修）<br>運営・指導：指導救命士 | 11～1月（所属）<br>運営・指導：指導救命士 | 12～1月（所属）<br>運営・指導：指導救命士 |
| 口頭指導研修<br>（講義・ロールプレイ） | 9月<br>講師：外部委託　運営：指導救命士 | | | |
| 南河内救急練成会<br>２日間×３回 | 2月<br>運営・指導：指導救命士　助言：医師　※医師によるポイント付与 | 2月<br>運営・指導：指導救命士　助言：医師　※医師によるポイント付与 | 2月<br>運営・指導：指導救命士　助言：医師　※医師によるポイント付与 | 2月<br>運営・指導：指導救命士　助言：医師　※医師によるポイント付与 |
| 実施基準（ORION）※<br>講習会 | | | | 6月<br>運営・指導：指導救命士 |

**医師による助言等はあるものの、
指導救命士による横断的な教育が実現**

※ORIONとは、大阪府救急搬送支援・情報収集・集計分析システムの略。ICTを用いたシステムである。

## 気管挿管未達成者への再教育

実施期間　平成28～30年度（年2日間程度）
受講者数　延べ　77人

※「挿管薬剤補習型」を受講することで、
　成功症例（最大1回）として計上可能

## 口頭指導・119番オペレーター研修

実施日　平成28年9月13・14日
受講者数　131人

## 救急練成会

実施期間　平成28～30年度（年2日間）
出動隊数　延べ　16隊（48人）

平成30年度は、Webアンケートを用いて、
見学者に対してリアルタイムな投票を実施
競技者の評価や質問などを募り、フィードバックした

## 実施基準（ORION）研修

実 施 日　令和元年6月17・18日
受講者数　48人

【講習内容】
・「傷病者の搬送及び受け入れの実施基準」策定からORION構築
・実施基準の観察基準から緊急度判定の順序
・模擬症例による緊急度判定

The Power of PowerPoint | thepopp.com

# 挑戦その弐　ＭＣ再編と実務者ワーキングの新設

| 南河内救急懇話会 | 南河内地域MC協議会 |
|---|---|
| 事務局：保健所 | 事務局：府危機管理室（土木事務所） |
| 業務：実施基準検証 | 業務：活動検証 |
| 役割：医療体制の整備 | 役割：病院前の整備 |

過去、病院前と医療体制の検証は別々

H30/6
統合

府内では
南河内のみ

救急医療及び病院前救護の体制強化を目的

**南河内地域救急MC協議会**

事務局

府危機管理室（土木事務所）・保健所

業務：実施基準・活動検証

教育小委員会

検証小委員会

実務者ワーキング

現状、現場の救命士の意見を反映できる環境はなく、各小委員会も活発な議論できる場ではなかった。

そこで、審議が可能な実務者ワーキングの設置を指導救命士の提案により、新設された。（令和元年6月 ）

指導救命士が実務者ワーキングのメンバーに！！

# 実務者ワーキングの概要

目　的　:教育・検証小委員会への議題の振り分け、内容の調整及び検討を行う。

メンバー　:構成消防本部の**指導救命士**、MC事務局職員、MC医師（助言者）

## 第1回　実務者ワーキング会議

開催日時　令和元年11月25日

開催場所　大阪狭山市消防本部

参加メンバー　指導救命士　8名、MC医師　3名

MC事務局　3名

## 検討した内容　（医療体制へのアプローチ）

①実施基準にかかる医療機関リストの更新

②医療機関へのフィードバック方法

③ORIONデータに関すること

- 南河内独自の必須項目の検討（患者背景など）
- データの医療機関名を開示の検討
- 医療機関受入/実施基準評価事案のフィードバック方法

## 今後の検討課題

・緊急度判定の具体的方策

消防庁発出「119番通報時」

「救急現場」に関する緊急度判定

（ORION）を地域で標準化するための

具体的方策の検討

# 実務者ワーキングが目指すもの

The Power of PowerPoint | thepopp.com

# 今後の展望 と まとめ

1. 気管挿管未達成者研修の整備

H30年度より各所属で実習可能
より再教育に取り組みやすい環境となった。

2. 救急錬成会の結果を研究に活かす。

Webアンケート(Googleアンケート)を用いた研究などを検討

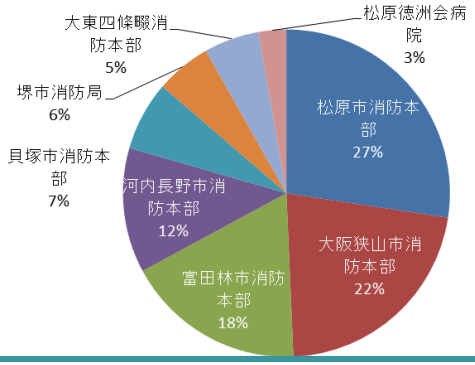
ネット環境にあるPCとスマホを使用することで、回答・集計が可能

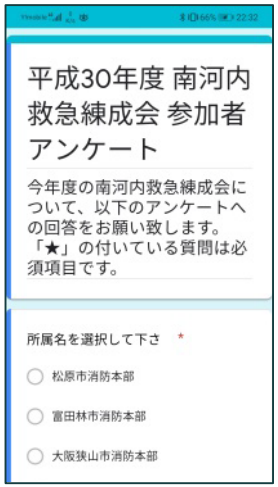
ex)「多数傷病者対応に関する研究調査」

3. 2月８日の結果

（1）所属名

| 所属名 | 人数 |
|---|---|
| 松原市消防本部 | 20 |
| 大阪狭山市消防本部 | 16 |
| 富田林市消防本部 | 13 |
| 河内長野市消防本部 | 9 |
| 貝塚市消防本部 | 5 |
| 堺市消防局 | 4 |
| 大東四條畷消防本部 | 4 |
| 松原徳洲会病院 | 2 |
| 総計 | 73 |




- 南河内地域は、他圏域と比べて教育体制・救急システムの整備は遅れていた。
- しかしながら、指導救命士の認定を契機に、MC内での教育体制は整いつつあると考える。
- 今後はMC内でも、その資格を活かし、地域の医療体制強化に貢献すべく、挑戦を続けなければならない。